



あの部活に入りたい！
気になる
部活調査隊
「中学校には
どんな部活があるんだろう？」
そんな疑問に答えるため、
いろいろな学校の名物部活を
リサーチしてきました！

そこが知りたい！ 調査ポイント



自慢

川越警察署主催のイベントで、部長が一日署長としてヘルメット着用の重要性を呼びかけた。地元の交通安全啓発活動にも一役買っているのも自慢。



城北埼玉中学・ 高等学校

自転車競技部

設立 2017年
部員数 28人
活動日 月、火、水、土
活動実績 全国高等学校選抜大会出場、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）出場、合宿など



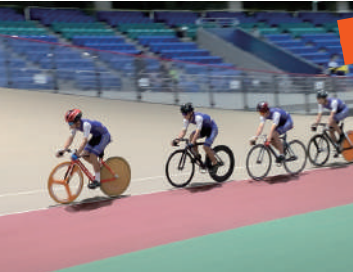
必須アイテム

ヘルメット、サングラス、グローブ、スパイクシューズは必須。普段の練習でも大会でも、安全に自転車を走らせるために欠かせない自転車専用のアイテム。



目標

2023年3月には全国選抜大会に、2023年夏にはインターハイに、いずれも初めて出場した。今後は、各自が主体的に練習に励み、全国大会で入賞することが目標。



メッセージ

個人競技のようであるが、実は助け合いの自転車競技。トレインを組む練習で協調性が身につきます。



顧問
木下幸一先生(顧問)
矢野豊先生(顧問)

部員

小林右京くん(中1・部員)
篠原理矩くん(高2・部長)
大澤慶集くん(中3・部員)
下村一輝くん(中1・部員)



自転車競技は、冬は寒く夏は暑く大変ですが、皆、自転車愛がとてもしっかり走り手入れも楽しんでいます。

競うこと、楽しむ

楽しいです」というのは中1の下村一輝くん。同じく中1の小林右京くんは「自転車は100km走った100km分の景色を見られるのいいと思って。もっといろんな景色を見たいし、もっと速く走れるようになりたい」とのこと。中3の大澤慶集くんは「めずらしさに惹かれて入部しました。僕はスポーツがあまり得意ではなかったのですが、唯一まともに取り組めたのが自転車です。走りに行ったら先で知り合いが増えるのも世界が広がって楽しい」と話します。「自転車学校から往復110kmの東京ディズニーランドに全員で行くなど、盛り上がるイベントもいろいろありますよ」(木下先生)

こと、それぞれが目指す走りを追求

隊列を組み仲間と共にペダルを漕ぐ！
夕暮れ時、広大な田んぼの向こうから4台の自転車が勢いよく走ってきました。「あのようにならなくていいよ」と言うんです。話をしたのは自転車競技部顧問の木下幸一先生。同じく顧問の矢野豊先生は「トレインを組むのは、前の人風がよくなることで後ろの人が楽に走れるようにするためですが、レースで事故を防ぐという面でも重要なことです。前の人にピッタリついて走るのは難しいのですが、自転車競技の基本であり大事な練習なんです」と言います。自転車競技部には、競技専門の「競技班」と、体力づくりが目的の「ロード班」があって、各自が好きな班を選びます。いずれも普段は学校近くの道路を走り、雨なら屋内でローラー台に自転車を乗せて走行練習。日が長い時期の土曜は彩湖や荒川サイクリングロードに遠出して走るのだそう。高2で部長の篠原理矩くんは「高校からこの学校に入部し、自転車への興味から入部しました。努力するとタイムが縮むなど結果が出るのがおもしろい」と話します。「入部のきっかけは『弱虫ペダル』。同期も先輩も仲が良くて